



# 第17回「おたる案内人」マイスター 検定試験問題

2025年3月9日

小樽観光大学校

\*合格発表は下記のホームページでご確認できます。  
\*URL:<http://www.otaru-kd.com>

各設問で選択問題は番号で、また記述問題は決められた字数で記入しなさい。  
(制限時間90分)

問 1

小樽の観光とまちづくり運動の関係で間違っている表現は次のどれでしょうか。

1. グローバル経済に惑わされず地域観光と文化の自立を目指す
2. 観光は経済なのでまちづくり運動と混同してはいけない
3. 小樽の観光はまちづくり運動の資源発掘が方向性をつけてきた
4. 小樽の観光はまちづくり観光、あるいは再生観光といわれている

問 2

現在の小樽観光が発展したきっかけは次のどれでしょうか。

1. 昭和9年誕生のオタモイ龍宮閣で多くの観光客が押し寄せた
2. 昭和59年開催の小樽博で多くの観光客が押し寄せた
3. 昭和後期の小樽運河保存運動のマスコミ報道が結果的に宣伝になった
4. 平成11年開業のマイカル小樽で観光客が押し寄せた

問 3

小樽観光の初期に、小樽を訪れた観光客層で違うのは次のどれでしょうか。

1. ニセコへのインバウンド富裕層
2. 高度経済成長で預貯金が多かった層
3. 運河のマスコミ報道に興味を持った層
4. 小樽の古い街並みに興味を持った層

問 4

現在、小樽を訪れる観光客のアクセスで違うものは次のどれでしょうか。

1. 函館本線
2. 札幌バイパス
3. フェリー航路
4. 手宮線

問 5

堺町通りが現在のような観光拠点になったさきがけの会社は次のどれでしょうか。

1. 昭和58年 北一硝子三号館
2. 昭和63年 小樽オルゴール堂
3. 平成3年 小樽大正硝子館
4. 平成10年 洋菓子舗ルタオ

問 6

小樽市が小樽観光元年とするのは現在の小樽運河が整備された年ですが、それは次のどれでしょうか。

1. 昭和58 (1983) 年
2. 昭和61 (1986) 年
3. 平成元 (1989) 年
4. 平成3 (1991) 年

問 7

昭和63年には多くの観光客が押し寄せて来ましたが、当時の市民の感想で異なるのは次のどれでしょうか。

1. 車が渋滞して迷惑だ！
2. 観光客なんかゴミを散らかしていただけだ！
3. これほど来るなら便乗して何か売ろう！
4. DMOをつくって国の政策と連携しよう！

**問8**

小樽の銀行街が現在の観光街になっていく影響を与えた、まちづくりイベントは次のどれでしょうか。

1. 小樽雪あかりの路
2. ポートフェスティバル
3. 小樽ガラス市
4. サマーフェスティバル

**問9**

「2006年長崎さるく博覧会」は何を軸にしたイベントか、次の中からえらびなさい。

1. 日本で初めてのまちあるき博覧会
2. 日本で初めての着地型観光博覧会
3. 日本で初めての歴史散歩博覧会
4. 日本で初めてのパビリオン無し博覧会

**問10**

長崎さるくが全国的に注目される「基本理念」を以下の4つから1つえらびなさい。

1. 長崎の本物の歴史資源を活かし個性ある文化を活かす
2. 長崎のまち活かし人活かし
3. 有名観光地を結ぶルートをつくる
4. 長崎市役所をアピールする

**問11**

「2006年長崎さるく博覧会」は3つのメニューで構成されました。正しい3つのメニューは次のどれでしょうか。

1. 歩さるく・史さるく・学さるく
2. 遊さるく・史さるく・学さるく
3. 遊さるく・通さるく・学さるく
4. 史さるく・通さるく・食さるく

**問12**

次のなかで、さるくの「まち巡り」観光の効果として違うものはどれでしょうか。

1. 町をそぞろ歩いてもらうことで町の商店の商品を購入してもらえらる
2. 自分の町のことを知らない住民の再組織化、伝えていくべき埋もれていた価値の掘り起こし
3. 町を経済的側面だけでなく、町を活かし、人を活かす手段となる
4. 一過性のイベントだが人を集める効果がある

**問13**

2025年2月の「小樽雪あかりの路」は第何回になるでしょうか。

1. 第27回
2. 第26回
3. 第25回
4. 第24回

**問14**

小樽雪あかりの路誕生の原動力となったのは、次のどれでしょうか。

1. 観光入込客数は700万人を超えたから
2. 潮まつりに対抗するため冬のイベントを開催したかったから
3. 運河保存運動で得たまちづくり活動の経験でまちを盛り上げたかったから
4. 商工会議所など市内の経済団体が中心になって活動したから

**問15**

「小樽雪あかりの路」のルールで現在公式には認められていないのは次のどれでしょうか。

1. ガラスの浮き玉を使う
2. 木の枝などの自然物を使う
3. ツララや氷を使う
4. 天然の絵の具で色をつける

**問16**

小樽雪あかりの路とさっぽろ雪まつりとのイメージの対比で、組み合わせで違うのは次のどれでしょうか。(左が小樽雪あかりの路、右がさっぽろ雪まつり)

1. 陰一陽
2. ロウソク電飾
3. 消防一自衛隊
4. 美しさ一迫力

**問17**

令和6(2024)年度上期の小樽市の観光入込客数は、前年度比31万3,700人増の108.6%となりました。また、コロナ前の令和元年度と比較すると99.8%となっています。令和6年度上期の観光入込客数は次のどれでしょうか。

1. 346万9,400人
2. 364万9,400人
3. 396万3,100人
4. 398万3,100人

**問18**

令和6(2024)年4月に小樽港第三号埠頭エリアが「みなとオアシス」として全国で161ヶ所目、道内では13ヶ所目として国土交通省に登録されました。小樽に登録した名称は次のどれでしょうか。

1. オアシス小樽
2. おたるオアシス
3. みなと小樽オアシス
4. みなとオアシス小樽

**問19**

次の内容に該当する建物はどれでしょうか。(建物名は旧名)

堺町通りに位置する小樽市指定歴史的建造物でウダツがある瓦屋根の2階建です。現在、建築時の会社は今も小樽本店として2階で営業しており、令和6(2024)年、創業140周年を迎えました。

1. 旧金子元三郎商店
2. 旧岩永時計店
3. 旧北海雑穀株式会社
4. 旧名取高三郎商店

**問20**

運河公園横に建つ北前船主の倉庫3棟をガイドしています。ガイド内容に間違いがあるのは次のどれでしょうか。

1. 倉庫正面に向かって右から、右近倉庫、広海倉庫、増田倉庫でいずれも北前船主が建てた倉庫です。
2. 右近倉庫は福井県南条郡南越前町出身の右近権左衛門が建てました。特徴としては大きな印が付いており、読み方は「いちぜんばし」といいます。
3. この3棟の建築年で古い順は、右近倉庫、広海倉庫、増田倉庫です。
4. これらの倉庫3棟は日本遺産「北前船」の構成文化財になっています。他にも、大家倉庫や小樽倉庫も日本遺産の構成文化財となっています。

## 記述式問題

次の各設問に200字前後の文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

### 記述問題Ⅰ

これまでの小樽の観光拠点は、中央通り運河沿線、堺町通り、第三号埠頭、色内通り、北運河周辺、旧手宮線沿線、水天宮の丘など、それぞれ特徴付けられて推進されてきました。

住吉神社・旧住ノ江カトリック教会・浄暁寺、あるいは住ノ江火の見櫓などがある丘を「社(やしろ)が丘」といいます。この丘を新たな観光拠点にするとしたら、あなたはどのようなイメージになりますか。次の3つの要素を入れた内容で書きなさい。

- ① 丘のネーミング:(例:心の丘)
- ② どんな施設があったらよいか:(例:歴史交流カフェ)
- ③ その理由(②の理由)

<まちづくり観光論より>

### 記述問題Ⅱ

「長崎さるく」は観光施設巡りではない、まち歩き観光を実現し今も続けています。これからの小樽観光の参考になる取組みです。小樽版の「長崎さるく」を考えるとしたら、あなたは小樽の何をテーマにし、どこを案内しますか。

\*単なる観光コースではなく、テーマにした理由を明記すること。

<観光資源論より>

## 総合記述問題

次の各設問に600字以上800字以内の文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

小樽市は地域型の日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都」に認定されました。この日本遺産の26件の構成文化財は「小樽文化遺産」でもあり、今後、地域の観光振興の活性化に繋げていくものと思われます。

この日本遺産ストーリーは4つに構成されています。その中の一つに【運河保存運動から観光都市へ・「民の力」による再生】があります。あなたは散策ガイドをするとき、この日本遺産のストーリーをどのように理解し、観光客へ解説しますか。次の条件を満たす内容で書きなさい。

\*観光コースの提案ではなく、「民の力」を具体的にどのように伝えるかを分かりやすく書くこと

<参考資料>HP小樽文化遺産ポータルより抜粋

### 【運河保存運動から観光都市へ・「民の力」による再生】

昭和後期、小樽は、石炭から石油へのエネルギーの転換、港湾の市場が太平洋側へ移行するに伴い、次第に衰退し、「心臓」の鼓動は弱まっていきました。昭和40年代に運河を埋め立てて、道路を建設する都市計画が決定し、有幌地区の倉庫群の取り壊しが始まりました。これに対して市民の間に、まちの発展の象徴である運河を守ろうとする運動が起こります。小樽では明治から、まちの発展とともに財を成した資本家たちは、市庁舎、公会堂などを寄付するなど、「民の力」で自らまちを作り上げてきました。運河保存運動の根底にこの「民の力」があったのです。

10年あまりにわたり市中を二分する大論争の結果、現在の運河の姿となりました。まさに「民の力」が「心臓」の鼓動を蘇らせたのです。明治以降に造られた他に類を見ない特徴的な建築群とまちなみは、運河保存運動を経て多彩なかたちで蘇り再生活用されている町となりました。